

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 八木 信樹

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視察日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時00分
調査事項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぶらすのへや』について
行政視察を終えて	多様なニーズに応じ、誰一人取り残されない教育の実現（戸田型オルタナティブ・プラン）について学びました。今までの経験と勘と気合いから、調査・研究のデータをみた客観的な概念で、不登校対策を実施されており、学校生活上、不安や困難を感じている児童や不登校傾向児童への多様な居場所の確保として戸田型校内サポートルーム「ぱれっとルーム」全小学校と「きゃんばすルーム」全中学校に設置し、早期対応・早期支援にあたられていました。 また、戸田市教育支援センター「すてっぷ」については、民間の教育関連会社に運営委託、さらにオンライン支援では、メタバース内「room-k」などにより不登校を支援するなど、多様な学びの場の拡充に取り組まれていました。そして、埼玉県教育委員会の生徒支援教室「いっぽ」などとも連携・交流など切れ目ない支援をされていました。 そうしたなかで、子ども達にとって学校が楽しい、登校したいと思える環境をつくっていくことが必要だと戸ヶ崎教育長からご説明を頂きました。 あらゆる取り組みを通して子ども達の学び意欲や自己肯定感を育み、安心して通える	学校に行きづらい、行っていない児童生徒一人一人に合った環境を提供する「居場所」をつくる事を目的に大学内ふれあいルーム「とことこぶらすのへや」を地域課題解決のためのプロジェクトとして十文字学園女子大学側から新座市に提案して実現されました。特徴として、保護者や兄弟姉妹も参加できる環境で、無料のカフェタイム、独自のカリキュラムが運用され、スタッフには、専門性のある学生（心理学科・児童教育学科）や大学教員、元小学校教諭、新座市指導員で対応し、空き教室を活用し、支援をされているとの事でした。 また、学期中に協同的な活動、体験活動などを1回は行うことを目標として2023年・2024年12月にクリスマス会、2024年7月には、こども縁日出店などもされているとの事でした。 報告については、支援員を通して児童生徒の状況を教育委員会に報告したり、校長先生、児童委員、相談員などとお会いする機会には報告したりしているとのことでした。 こうした取り組みで、母子分離が難しかった児童に変化を与え、協同活動ができるようになったり、自己肯定感の向上、学習に向かう

	学校づくりを進めていく事が重要であると改めて認識いたしました。	姿勢の向上につながっているとのことでした。本人に合った環境をつくっていくことこそが、子どもの助けにもなり、成長にもつながる大切な取り組みだと感じました。
--	--	---

◇ 行 政 視 察 報 告 書 ◇

《提出者氏名》 樋口 浩之

委員会名	文 教 厚 生 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委 員 長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委 員] 河野 啓介	[委 員] 若井 睦巳 [委 員] 木村 裕 [委 員] 吉田 尋子
視 察 先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視 察 日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視 察 時 間	午後1時30分 ～ 午後3時00分	午前9時30分 ～ 午前11時00分
調 査 事 項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぶらすのへや』について
行政視察を終えて	戸田市における不登校対策の取り組み、戸田型オルタナティブ・プラン最大の特徴は、科学的な教育へのアプローチである。これは従来の教育現場に見られる経験、勘、気合の3Kに頼った教育方法を否定し「科学」を教育の世界に組み込もうとするものである。科学的とは客観性、論理性、再現性を持つということである。戸田型オルタナティブ・プランは、まず教育そのものに対して客観性を持つことで、このような視点を持ち得たと考える。論理とは説得力である。戸田市の教育への取り組みはエビデンスに基づいた説得力を持つ。また学校をラボラトリーにするというGIGAスクールの取り組みではGoogle、Microsoft、Intel、Adobe、のような世界的な企業とも連携し最先端の教育現場を実現しようとしている。顕微鏡、鉄棒、オルガン、学校にしかないものに、こども達はわくわくする。3Dプリンター、レーザーカッター、ドローン、といった最新の設備が、現在の学校を魅力的でわくわくする場所にする。リスクを恐れることが最大のリスク。学校はもっと魅力的な場所になれる。戸田型オルタナティブ・プランはそう感じさせてくれた。	新座市の不登校支援、最大の特徴は大学との連携である。『とことこぶらすのへや』という場所が大学内に設けられ学生や教員がスタッフとして配置されている。ここでは、不登校という課題をヒューマンエラーとシステムエラーに分類する。ヒューマンエラーとは個人に起因するものであり、これを外から変化させることは困難であるが、同一の課題に対してシステムエラーという視点で取り組むことで、外部から変化の可能性を探ろうとするものである。つまり不登校の原因を児童個人にあると考えるのではなく、児童を取り巻く外部環境にあると考え、児童が良い状態で登校できることを目指して、その環境を整備しようとするものである。 不登校は本質的な課題が見つけられず、このことにより教育の機会を妨げられている児童は、国内だけでなく世界中に多く存在する。そのような中で大学といった研究機関において学生が直接、この課題に関わることは、教育の未来において有益な取り組みの一つであると考えられるものである。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 河野 啓介

委員会名	文 教 厚 生 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委 員] 河野 啓介	[委 員] 若井 睦巳 [委 員] 木村 裕 [委 員] 吉田 尋子
視 察 先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視 察 日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視 察 時 間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時00分
調 査 事 項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぶらすのへや』について
行政視察を終えて	・中央教育審議会のメンバーでもある、戸ヶ崎 勤教育長が、問題の背景として教育を取り巻く問題について持論をとうとうと述べられました。その多くは観念的なスローガンであり、ヒロイズムを提起するものと感じられました。 主に印象的だったのは、 1. 「民間の力」の絶対化。「児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実」としながら、社会＝企業という狭い視点にとらわれている。 2. 教員の力量に対する不信がありながら、最終的な責任を現場教師に丸投げしている、という矛盾。 3. 個々の生徒・児童を数値化した「データ」に基づく判断の重視が繰り返して述べられたが、人間の成長を数値に置き換えることの不自然さについては、全く思考が及んでいないこと。 ・あらかじめこちらから質問事項として提出していた内容および、オルタナティブ・プランに関しては、全くと言っていいほど触れられませんでした。「支援担当の教員は現場から逃げている」などという発言も	・「設置の目的」 学校に行きづらい、行っていない児童生徒、一人ひとりに合った環境を提供する「居場所」を作る。 「不登校」の原因 ＝ システムエラー（「ヒューマンエラー」と捉えると変えるのは困難） 児童生徒と学校環境が合わない ＝ 環境が悪いというより相性の問題（集団生活が合わない 通常使われている情報伝達の方法ではうまく理解できない 音や味に過敏で辛い 頑張っても忘れ物をしたり学習が理解できない） ・「開催場所」 十文字学園女子大学内 ・「時間」 毎週金曜日 14時～18時 ・「担当者」（スタッフ） 大学教員。元小学校教諭。新座市指導員。学生ボランティア（専門性の高い学生＝児童教育学科、心理学科専攻。学生にとっても貴重な実習の場となっている）。 ・「コグトレ」の活用 https://cog-tr.net/cogtr/ ・「担当者の研修など」 情報共有や高めあう場として、毎回終了後

	あり、その教育観には受け入れないものが多々ありました。	に振り返りと共有。半期に 2 回程度の交流会をおこなっている。 ・「教育委員会との連携」 小中学校との連携・情報共有として、毎月活動報告書を提出、支援員を通じて児童生徒状況を教育委員会に報告、校長・児童委員・相談員などとお会う機会に報告。
--	------------------------------------	---

◇ 行 政 視 察 報 告 書 ◇

《提出者氏名》 若井 睦巳

委員会名	文 教 厚 生 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委 員] 河野 啓介	[委 員] 若井 睦巳 [委 員] 木村 裕 [委 員] 吉田 尋子
視 察 先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視 察 日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視 察 時 間	午後1時30分 ～ 午後3時00分	午前9時30分 ～ 午前11時00分
調 査 事 項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぶらすのへや』について
行政視察を終えて	「戸田型オルタナティブ・プラン」について、中央教育審議会委員である戸ヶ崎 勤教育長より説明を受けた。 ・オルタナティブ・プランの背景 →勘や経験に頼るのではなく、教育データなど客観的データを共有し活用していく。 →産官学と連携した知のリソースを活用し、安価で効率的に、最先端の質の高い教育を提供する。 ・教育データの利活用 →教育総合データベースの構築を行っている。つくることを目的化せず、活用することが重要である。教育データが職員室の「共通言語」になることを目指されている。 ＊全ての子どもたちに学習機会を保障するために、学校に行きづらい子どもたちの居場所づくり、多様な子どもたちを受け入れる体制がつけられている。 子どものSOSに早期に気づくことが大切であり、経験ではなく科学的データに基づいて全ての教職員がそれに気づけるよう取り組まれていることに感銘を受けた。	教育支援ルーム「とことこぶらすのへや」について、十文字学園女子大学星野 敦子教授に説明を受けた。 ・学校に行きづらい、行っていない児童生徒、一人ひとりに合った環境を提供する「居場所」をつくることを目的として、毎週金曜日に学内に開設している。 →スタッフは、学生（専門性の高い学科の学生 児童教育学科、心理学科）、大学教員、元小学校教諭、新座市指導員の19名。 →運用として、保護者や兄弟姉妹も参加できる。母子分離が難しい子どもの場合や保護者の受け皿としての役割を担い、学校の負担を下げたいとの思いから。 →地域課題解決のためのプロジェクトとして、大学側から新座市に提案して実現したもの。 ＊市と大学が連携し、地域を巻き込んで良い事業の例だと感じた。また、「とことこぶらすのへや」が学生の実習の場所となっており、大学志望の理由の一つとなっているなど良い循環となっていると感じた。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 木村 裕

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視察日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時00分
調査事項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぷらすのへや』について
行政視察を終えて	・戸田型オルタナティブ教育の目指すもの 多様なニーズに応える。誰一人取り残されない。 ・ICTの活用 教育総合データベースの活用。教育データが職員室の「共通言語」になることを目指す。 （質問事項） 1 先進的な取り組みがなされているが戸田市への就職希望は多いか。 → かつて学校が荒れていた時代があったが、今は改善され、戸田市の教育方針理解する意欲の高い教師が増えてきている。 2 進められている教育施策は膨大だが、教師間での理解を深める方法はどうか。 → 学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間にすることを目指す取り組みを重視しており、そのことを徹底させている。	・大学内ふれあいルーム「とことこぷらすのへや」の紹介 市が設置する教育支援センター「ふれあいルーム」（月～金、10時～14時）とは別に、十文字学園女子大学の構内に設置された教育支援センター（金曜日、14～18時）。大学の研究プロジェクトであり、スタッフとして、学生もボランティアとして参加。 （質問事項） 1 「とことこぷらす」というネーミングのプラスの意味は → 大学創設者の十文字こと氏から、「とことこ」が発想されたのに加え、十文字の十から「ぷらす」が考えられた。 2 「とことこぷらす」と、市のふれあいルーム、NPO設置の「むささびルーム」のすみわけはあるか。 → それぞれ参加申し込みをしてもらっているが、時間帯が異なり重複して参加されている方もある。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 吉田 尋子

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	埼玉県戸田市	埼玉県新座市
視察日	令和7年8月6日（水）	令和7年8月7日（木）
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時00分
調査事項	・戸田型オルタナティブ・プランについて	・教育支援ルーム『とことこぶらすのへや』について
行政視察を終えて	1, はじめに 埼玉県戸田市（人口142,182人、面積18.19km²）は埼玉県南部に位置し、荒川を境に東京都に隣接し、都心から20km圏が市の北部にあたる。昭和41年市が誕生した当時約5万5千人であった人口は、昭和60年にJR埼京線が市の中央を縦断する形で開通し市内に3駅が開設されたこともあり、平成8年には10万人を突破。以後も人口は増加し続けている。 市内には、小学校12校、中学校6校があり、児童生徒数は11,362人。教育にも力を入れ、現在の戸ヶ崎勤教育長は平成27年から教育長を歴任され、多くの教育改革を実行されている。不登校対策「戸田型オルタナティブ・プラン」もその一つであり、誰一人取り残されない教育の実現のため多様な学びの場を構築されていることから、戸田市における不登校対策を視察した。 2, 取り組みの現状 多様な学びの場の選択肢 ① 小学校内にぱれっとルーム、中学校内にさわやか相談室、キャンパスルームを設置。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、	1, はじめに 埼玉県に新座市（人口166,392人、面積22.78km²）は埼玉県最南端にあり、南は東京都練馬区に隣接し、都心から25キロ圏内に位置している。市域内に東武東上線、JR武蔵野線他私鉄駅もあり、市民の通勤通学の足としての鉄道網が整備されている。昭和45年の市政施行時は77,704人であった人口は55年を経過し2倍以上に増加している。 小学校17校、市立中学校6校、私立中学校2校、県立高等学校3校、私立高等学校2校、私立大学3校を有する文教都市である。 多様な不登校対策を展開しているが、私立である十文字学園女子大学内に不登校児童生徒の居場所を設置している例は、他自治体ではあまりなく、その内容について視察した。 2, 取り組みの状況 新座市では、学びにつなげられない子をゼロにという目標に向けて、「切れ目のない」支援プランを展開されている。その一つに、大学内ふれあいルーム「とことこぶらすのへや」が十文字学園女子大学内に設置されている。2023年9月から毎週金曜日14時～18時に開室。対象は新座市内の小中学生で2025年2月から6月の通室者は21人（小学生17人、中

	スクールサポーターと連携しながら教室に入りづらい児童生徒の居場所を確保。 ② また、「すてっぷ」とよばれる教育支援センターを民間委託（学研・トライ）し、一人一人に応じた支援プログラム、不登校児童生徒の保護者支援、など専門的知見を活用した教室運営をすることにより不登校対策の拠点としている。 ③ オンラインでの授業参加を可能とするため、認定 NPO 法人カタリバによる room-K というメタバースも選択肢となっている。 ④ 県立戸田翔陽高校内には生徒支援教室「一步」を開設。高校進学を見据えた学習支援などを実施している。 教育総合データの活用 教育委員会及び市長部局に分散している子どもに関わるデータについて、教育分野を軸にした「教育総合データベース」を整備。教育データを作製することが目的ではなく、教育データが職員室の「共通言語」になる、使いこなすことが目的であるとの考えから、研究研修を進められていた。 3, まとめ 本市においても、不登校支援のための教育支援センター「さくら」を国際交流会館内に設置している。しかし、市域の広い本市ではさくらに通うことができない児童生徒もある。そのため、南丹市版「アウトリーチ」として各小学校内に分室を設置し実施している。また、「こどもカルテ」を作成し、情報を共有することにより、不登校児童生徒等の早期発見・早期支援を目指している。 戸田市では児童生徒に多くの選択肢があり、個々の児童生徒に適合する居場所を選ぶことができることから、早期対応早期支援が可能であると感じた。専門性のある人材の安定的な確保、気軽に相談できる体制づくり、支援体制の充実により、切れ目のない支援、きめ細やかな支援が可能となることから、本市のように規模の小さい自治体	学生 4 人) 通常 1 回の参加者は 5 ～ 10 人である。 地域課題解決のためのプロジェクトとして、大学側から新座市に提案して実現したもので、設置者は市教育委員会で運営は大学で行っている。保護者や兄弟姉妹も参加できるため母子分離できていない課題にも対応しやすい。また、スタッフは専門性のある学生（児童教育学科、心理学科）、大学教員、元小学校教諭、新座市指導員があたっている。 コグトレと呼ばれる児童精神科医宮口幸治氏考案の認知トレーニングを実施することで、社会面、学習面、身体面での能力の向上を図っている。 母子分離が難しかった児童の変化、共同活動への参加、コミュニケーション力の向上、自己肯定感の向上、集中力の向上、学校への復帰など、さまざまな効果がみられる。 3, まとめ 市の運営する支援教室に適合しにくい児童生徒の新しい居場所として、違った環境の居場所があることは児童生徒にとって新しいチャレンジの場となっている。また、スタッフの中に大学生がおられるという点は、児童生徒にとってリラックスしやすいのではないか。そういう点からも、大学内での設置は大変有用である。 本市においても、看護系の大学や高等学校もあり、このような連携の可能性はある。児童生徒側だけでなく、学生側にも将来に生きる大きな力が培われる効果もあり、大いに参考にするべきと感じた。
--	--	---

	では難しい面もあるが、このような体制に 一歩でも近づける必要がある。 本市のこどもカルテは、記載内容や運用 が不登校支援や予防に生かされるまでには 至っておらず、内容や運用方法については 戸田市の教育データの利活用などを参考に 充実していく必要があると思われる。	
--	---	--